

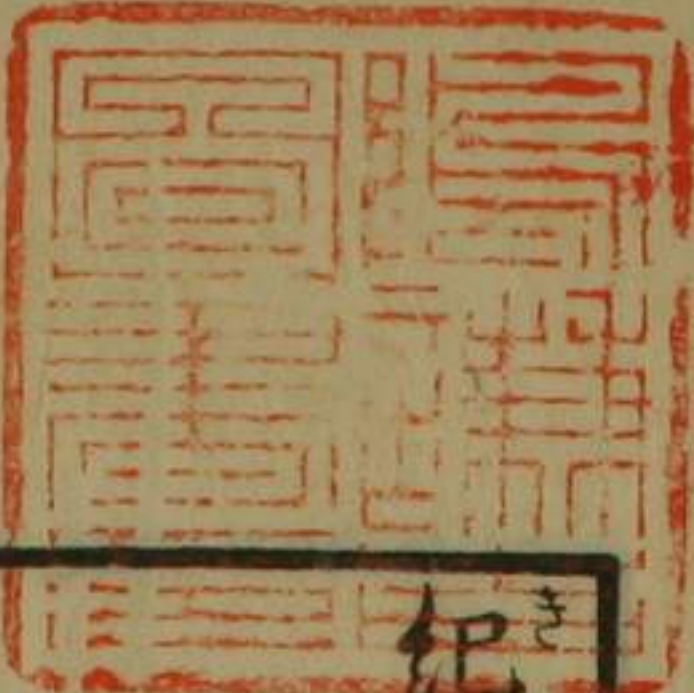


紀伊國名所圖會

六之卷上  
那名  
賀草  
郡郡

ル 4  
325  
9





紀伊國名所圖會卷之六目錄

觀音寺五瀨命天孫  
 竈山神社天孫  
 田福寺天孫  
 中言神社天孫  
 中言神社天孫  
 鬼の洞天孫  
 大林寺天孫  
 青内宿禰誕生井天孫  
 九頭林社天孫  
 仲宮寺大師堂  
 宇佐八幡宮天満宮  
 岳田城跡天満宮  
 法俗寺鬼子母神  
 中言神社天満宮  
 廢萬福寺天満宮  
 津田浦天満宮  
 二井泉天満宮  
 藏持寺天満宮  
 觀福寺天満宮  
 大井寺天満宮  
 四石千光寺跡  
 伊勢兩宮蛭子神  
 弁財天蛭子神  
 了法寺千鉢佛  
 天霧山五社明神  
 赤坂松開山行善上人廟  
 舟泉開山行善上人廟  
 公季神社開山行善上人廟  
 相持幡宮開山行善上人廟  
 黒の井泉開山行善上人廟  
 藥王寺開山行善上人廟  
 九頭明神開山行善上人廟  
 神宮寺開山行善上人廟  
 上來幡宮開山行善上人廟  
 宗祇法師舊宅跡開山行善上人廟  
 坊の浦開山行善上人廟  
 應供寺開山行善上人廟  
 鐘樓堂開山行善上人廟  
 星下開山行善上人廟  
 梅井泉開山行善上人廟  
 神宮寺大師堂  
 宗祇法師舊宅跡開山行善上人廟  
 坊の浦開山行善上人廟  
 應供寺開山行善上人廟  
 鐘樓堂開山行善上人廟  
 星下開山行善上人廟  
 梅井泉開山行善上人廟  
 神宮寺大師堂

松尾寺  
宇愛部西大明神  
神宮寺  
松尾神社

亀池  
那伊郡  
上川  
益石  
龜の川

後王寺  
大藏寺  
法光寺  
飛泉  
大飯の神供

九品寺  
金剛遍寺  
諸不動堂  
飛泉

國主神社  
假面  
鳥帽子若  
神掛岩  
諸井堰  
大飯の神供

薬師寺  
神戶  
古社  
礫石

催子塚  
権大明神  
惣樂寺  
多羅乳女神社

法弁寺  
王子峯  
觀音寺  
白岩谷

蓮兵幡宮  
子安神  
天満宮  
御湯釜

龜淵池  
丹生神社  
西山谷川  
石の洗の手

藏王寺  
箱山  
経ヶ淵  
石手

宮堰水  
神幸

矢筈山普門院  
神衣村  
奉る十一面觀世音

菅相公  
大師堂  
の二十七

當も潤基之邊  
堂宇之向村  
菅原姓神前中務

前二車寄  
鬼子母神

養心山法結寺  
鬼子母神

日云山  
大聖院  
法光寺

大聖堂  
法光寺

鎮守丸江明神  
岡山

當山人皇五十一代平城天皇  
沙宇大日三年  
天公乃識





之手死。為男建而崩。故疏其水門。謂男水門也。陵即在紀國之  
龜山也。云云  
彦五瀬命とり奉るん天降日高日子波限建鷲尊草耳不合  
命の長甲あ〜〜神母玉依毘賣今日向ち千種宮に〜産  
まけ所をり神弟四甲ゆ〜〜千種宮縮氷命言二を清毛  
沼命言四を豊神毛沼命後代つらく天の下ま〜〜伊弉諾伊弉册を神  
とせたままらぬ神父さふ伊弉諾伊弉册を神天を下ま〜〜やん〜  
五瀬命さ〜〜ま〜〜千種宮又命腹よ上朋たぬ〜〜  
彦五瀬命言言神毛沼命〜千種宮〜相議〜  
は〜東にの幸〜〜を國守の足一騰より〜流け  
の岡田の宮河岐國の多利理宮士備のち嶋宮へ改身に  
遷移ま〜〜東にすゆをたま〜速波門よわぬ〜  
根津日子瓜ぬ〜〜を海路の道に〜  
わぬ皇帥と空〜〜舟楫と〜〜兵會公高〜

あけ天下平げたま〜浪速の崎不進〜  
廻りて河内國白府津よ〜  
美山の長髓彦さき瓜拒〜〜唐所の兵を起〜  
孔全衛以不撤へ敵り〜皇船の楯とぬ〜  
下さぬひと兵を搦〜〜をひ〜  
地と楯津〜〜一〜彦五瀬命流矢のち〜  
手瓜好も大不惱まをたま〜〜命の詔〜  
〜日神の神子ちま〜日れ向〜敵と〜固良良か  
〜〜痛手負り〜〜日と〜  
負〜〜  
〜血沼〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜

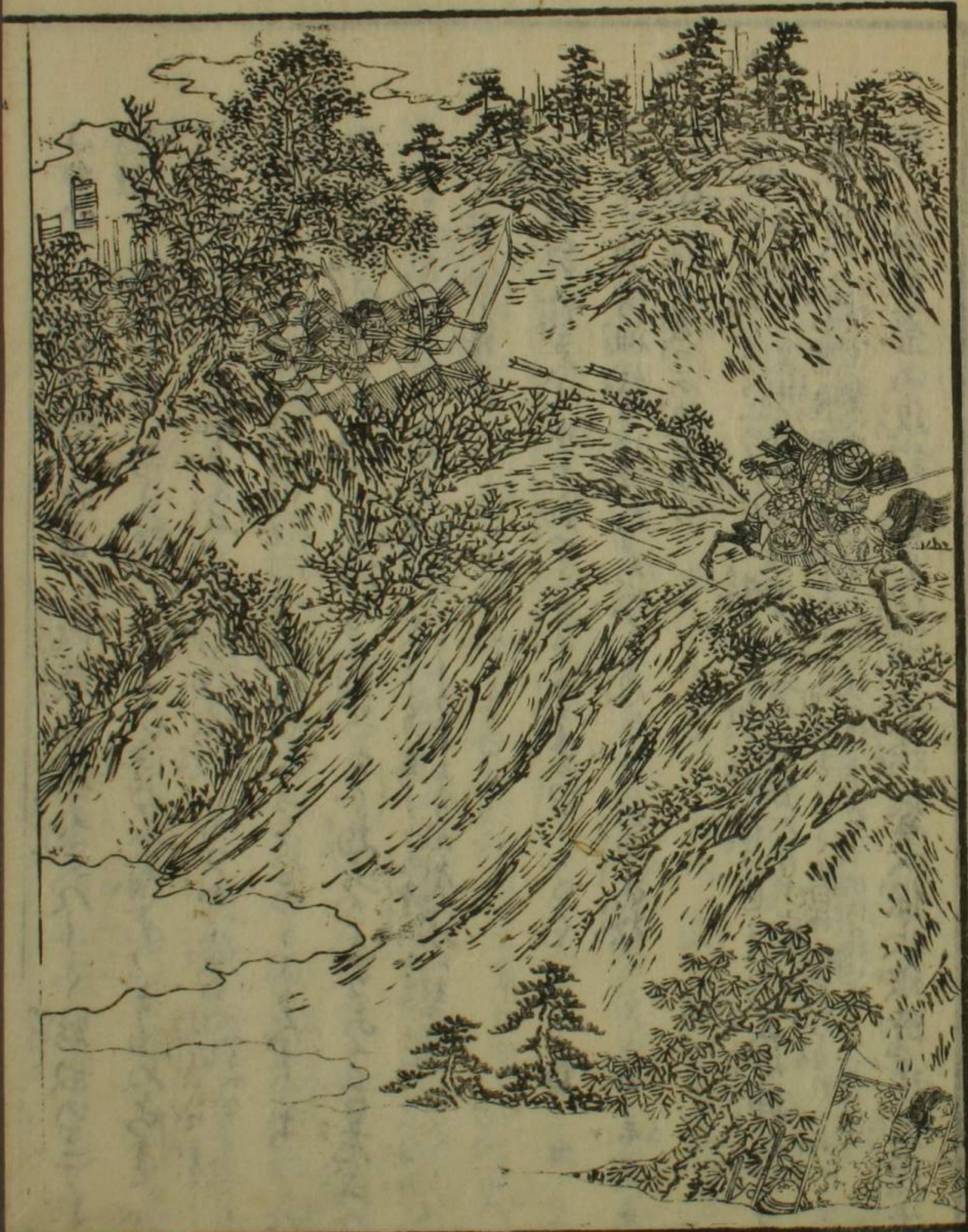


色子  
松之  
銀丸  
庭



竈山神社  
鎮火神社  
天霧山

五瀬命祠  
水門來吊白雲  
陸傳道當年駐  
六師龍眉瑞舟  
威自壯鶴飯卒  
表事堪亦東征  
將畧留文史南  
土頌馨奉典祠  
請見雄心未  
散奔潮戶激撲  
寒陂  
川合孝衛









大庄住者の海亭と云ん号りしと云き境内は後醍  
 醐帝沖胸よりて建くるに處りし願塔元應二年二月  
 廿一日大法會終りの供養塔に在り

中言神社 吉原村の山手平野にあり九月八日 神名草比古命名神比賣命

本社は王子一の尊衣 東三町 本國神名帳云從四位上名

紀曰大己貴命六世孫豐御氣主命以紀國造草比賣神事

一男又曰天香語山命五世孫建斗和命以紀國造智石曾妹

中名禰姫 夫當は名草一郡の地主の神也 紀氏の祖ありん

中言の神社と建るに神社及びのり幸と云余村里に中

言神明と稱し祭事ありは社に遷し祀まらし住者の封境

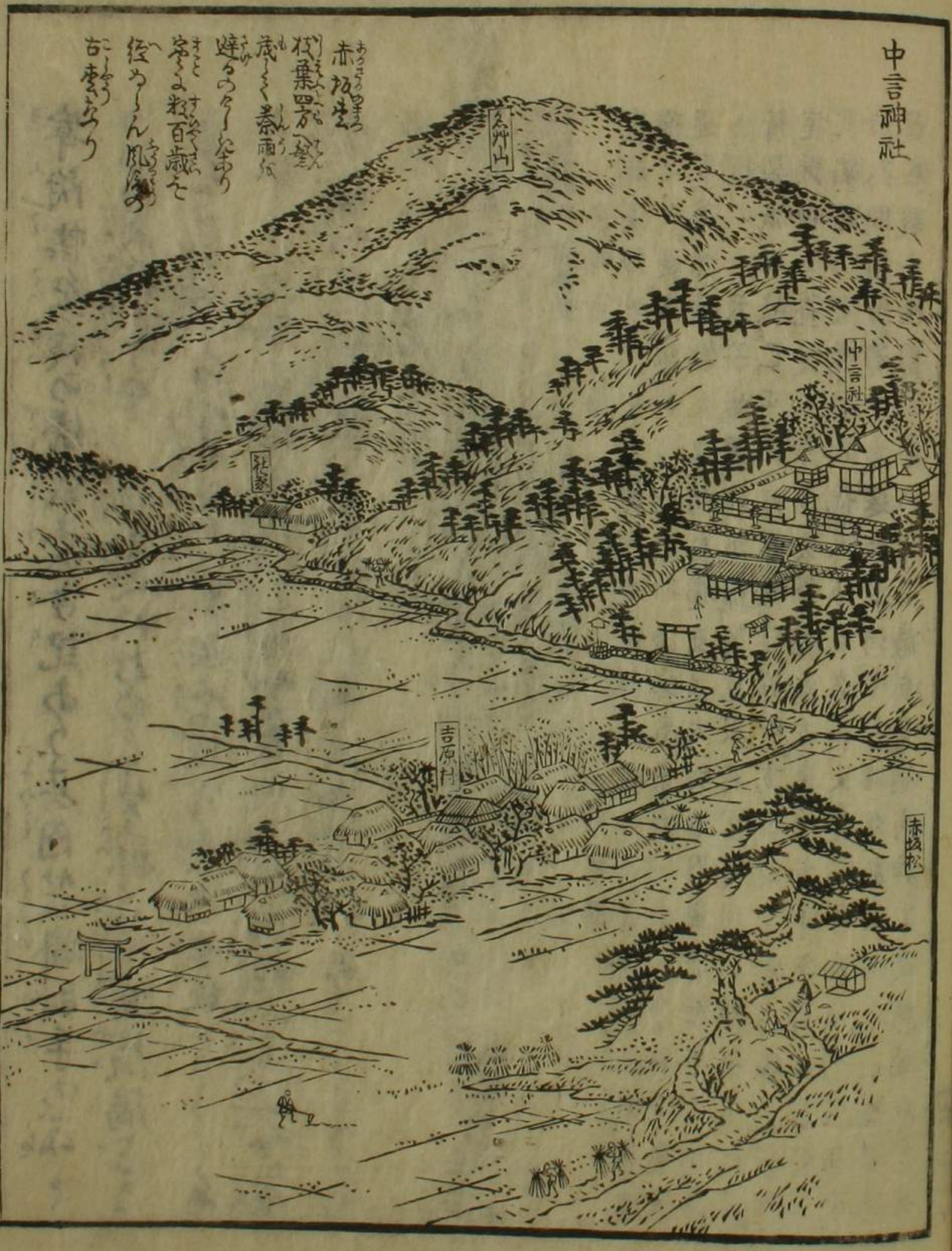
も度々なりし社も魏迄して社願も于若おりし應仁

の二乳を唐後で社内の子産子集令とて造建し祭れ

もく齋堂たりしが又天正十三年の寇火に罹りて亡滅し

今いかに十がうなむらんと云ん元龜年間の編る其外

中言神社



赤坂松  
 伏見野が  
 底く春雨  
 避るるあり  
 常は教百歳を  
 経めしん風

寧附帖名後の儀式木の古記あり其内笠掛射手の式と  
 ついで天作年中 禁庭にわのく笠掛お追物流滴こ  
 まをこつちあらし其始下野国を原野原の古狐とく  
 られり安房国の後人三浦分義純上総国後人上総分廣  
 常兩人と 禁庭へ入るるは是瓜沖真仍ありしよりこ  
 のくさくせんかろしとて

宗法法師閑居舊跡

日村西のふにあり宗法法師の墓あり在田町の東にあり  
 在田町の東にあり宗法法師の墓あり在田町の東にあり

宗法法師姓飯尾氏。紀州在田郡人也。少為律僧。好和歌。聞心  
 敬之名。適洛陽。與俱。經營斯道。師事東野。受古。今和歌集。以  
 連歌著焉。連歌之來。尚矣。獨及祇大。興海内風靡。而崇尚。推為  
 宗匠。天子始賜花下。彌蓋意。取其富。於風雅。雖後。有聞者  
 皆裂。祇以岐。已平生。好寄旅。萍浮。四方。無定居。嘗上。獻山。結一  
 室。踰。種。玉。菴。突。不。默。而去。登。橋。為。友。東。登。金。華。之。巔。西。窮。紫。塞。  
 北。踰。越。山。之。雪。足。蹟。徧。天下。之名。山。文。龜。二。年。自。信。州。之。山。東。  
 涉。入。間。川。留。滯。鎌。倉。還。向。駿。河。七。月。晦。死。於。巫。山。之。逆。旅。其。墓  
 蓋。在。駿。之。桃。園。云。壽。八。十。二。歲。病。革。猶。尚。與。其。徒。賦。連。歌。若。言

若絶。不知魂氣之存。所之矣。余聞祇愛。聞香。美鬚。口不為。鬚  
 之美。其能蓄。香氣。而宿。矢。嘗。山。行。遇。賊。不。遺。一。絲。祇。不。顧。而。行  
 行。數。里。賊。復。追。及。欲。得。其。鬚。祇。問。其。故。曰。以。作。拂。子。鬚。諸。市。祇  
 帳。然。賦。和。歌。曰。為。我。爾。拂。子。取。者。免。世。加。之。塵。乃。憂。世。遠。捐。果。積。累  
 賊。感。悟。悔。謝。盡。還。所。袖。且。送。出。山。中。備。他。盜。卒。得。無。害。是。足。以  
 槩。見。其。平生。也。夫。寄。旅。者。非。所。安。焉。彼。何。所。循。而。樂。不。去。耶。汲  
 汲。世。俗。之。償。與。瘠。不。已。者。豈。能。知。祇。之。心。哉。祇。真。肥。遯。之。士。連  
 歌。其。士。直。焉。已

自後集後集一千五百九十條之内に於て法隆寺の寺に於て四季おくれの世に其百六十一歩に

文龜二年八月二十二日一月の後の夏也

宗法法師

年やなとあま乃いづれの今おのほろ  
 山たうとけすそわの秋田く柳  
 あんれあひをれすそわの秋乃月  
 上房国文を深き深きう  
 うますすくあくくあくの平の肥  
 多樹の世をくくくくくくく  
 はるれえよ樹葉乃山そ

中言神仕 生後村の九月十日  
 後万福寺 日村は上土の寺也  
 本寺を現世寺 日村の作也  
 井泉 日村の作也  
 中言神仕 生後村の九月十日  
 後万福寺 日村は上土の寺也  
 本寺を現世寺 日村の作也  
 井泉 日村の作也



觀音寺  
大師井



観音寺  
大師井

所備

觀音堂

中言神社

八王子神社

八幡宮

觀音堂 近江三十三所之觀音堂の十六番に死に給ふ  
 中言神社 白妙山にありて一村の生土神なり  
 八王子神社 仁井田村にありて八幡宮の生土神なり  
 八幡宮 仁井田村にありて八幡宮の生土神なり

當社八幡宮沖鎮座奉紀曰氣長足姫尊  
 三韓の内新羅國より皇后既三韓を征  
 蚊田孫久於孝田別皇子  
 寮後千穴門 豊浦宮從海路向京  
 於於吉時皇后聞忍然王起師以待之  
 横出南海泊千紀水門則遷幸于江南  
 興行宮居之隨情



江南八幡下宮  
朝日神社  
諏訪神社

出遊之興 離宮河備拍原西岡之  
 格人ゆ仕八幡宮へ日本最初の沖田跡あり 當時皇后の臨  
 首紀水門に泊たまふ 後日ちる不遷幸もへへも皇子の止  
 並せよあふとらへ別るの安原御あり 紀水門へ今のとらへ  
 あつた蓋州地住まへ入江ちるべいところへ沖着岸ありせ  
 あいりちうところより江南村西へ沖舟之艦のき權のきあ  
 むびる地の名形は〜〜〜今に田畑の中み〜〜〜  
 皆その形をなせりと倍〜〜〜  
 馬地ま生つるもの瓜程〜〜〜あ〜〜  
 ころりるるさるのま〜〜〜  
 東南に寺備拍原とらへ別武内省祿沖降返の地はと  
 上宮の省祿乃沖親族あり〜〜〜は遠道と〜〜  
 〜〜〜







最上の下あつへ〜又沖鎮座奉記にもあはれ沖鎮宮の辺あり  
 よ〜記に山びらけのうらみたるものをも世餘那賢那に志  
 野村あり小竹宮の地ありとくま〜伊都郡又天の祝の奮  
 名ありま〜日ま〜おに園村八幡宮ありのま子法行次乃送  
 路あり〜小竹の流が夏の夜もあつ〜とらさる〜後人さるを  
 かんぐ〜幸甚とらん  
 例祭八月十五日あり神輿奉宮あり江南下の宮成沖鎮所  
 と〜〜渡沖あり其歳さたる物い地また〜〜は〜  
 滴〜〜〜は麗〜〜祭式あり  
 蒼菊山大林寺 江有村小松所たつりあり 奉さるゆゑに  
山福手・中畠山・伊守寺・三好寺・義興寺・對陣の傍にあり  
天正の藏橋寺 根來山開化院に屬す 奉さる十一面觀世音

長き尺八寸也き尺は西國二十三所なる西國の十五五尺に記しは紀元より

高寺の人王八十二代後多利院浄宗文治元年春友原康

法を魏たりしと中古畠山がつれをいふに年中のまは

と里老くは瓜野々々つてを再嘗てとやると安重ら

里の井泉 日村ありありの當村水は自由はく後俊の行基菩薩也

浦陀治山應供寺 相好ありありの聖觀音也

觀音堂 本寺大觀音也音修の寺自の他は西國二十三所なる西國の十四

武内宿禰誕生井 棟材ありありの武内宿禰誕生井也

すかろつたれへり宿禰の相原ありありの宿禰誕生井也

上代の人中に後世まき名の上國えたる武大臣に及りし

あまひく語傳より真上つるの沖代の物仕奉りし忠

誠の功績はやく天平の勅にも君事忠臣はく人臣乃

長を致し創り八氏の御ありありの万代の基を遺り

とらぬの山に記しは武内宿禰誕生井也

武内宿禰誕生井 棟材ありありの武内宿禰誕生井也

と多たつたれへり宿禰の相原ありありの宿禰誕生井也

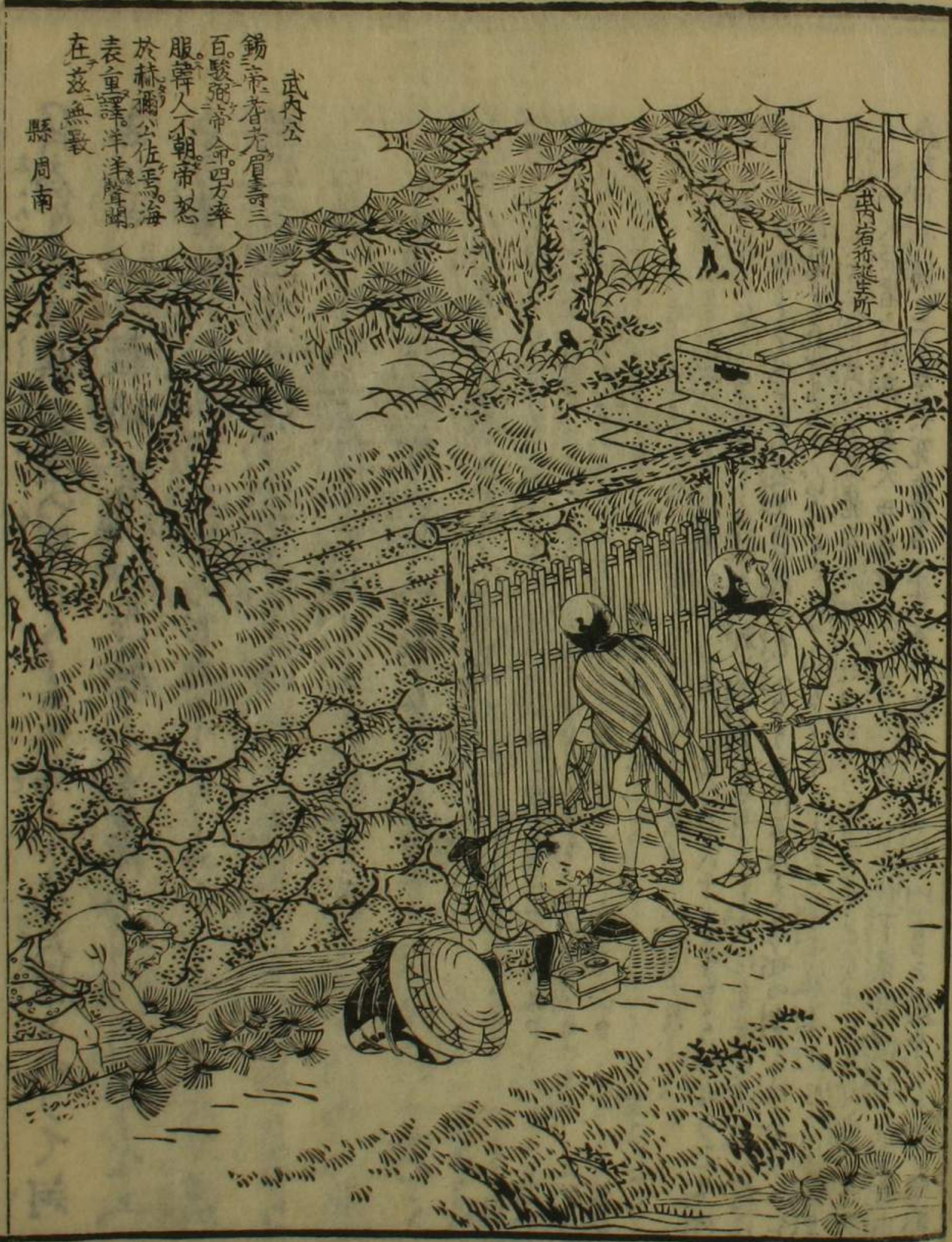
とらぬの山に記しは武内宿禰誕生井也

に内乃大野とよめるも武内宿禰誕生井也

とらぬの山に記しは武内宿禰誕生井也

大御教よ大臣の事と云ふは阿部よるせにまゝし書紀神功  
 卷の教も然らあり阿部内史の思ふよりまゝに味原内史  
 子孫の後よは母 切世よる武内と云ふを添くよむは世よ  
 竹内と云ふ地名のありより混じらるるなり多御宇智と訓  
 中と云ふなりまゝ古く皇太子と云ふ大兄と云ふ近臣と云ふ  
 阿部と云ふ省祚と云ふ別也兄の義にまゝた近臣と云ふ  
 教もよむよむる多なると後淨御原は世よよりては姓  
 を定め弟と云ふ真人と云ふ二を叙し弟と云ふ省祚と云ふ  
 よりの終る人の如き祚と云ふなり續紀慶雲四年の詔  
 には建内省祚令もり又古事記志加宮殿よる大臣  
 と云ふまゝ大臣と云ふのまゝあり系譜書紀景行御  
 卷よ三年春二月惠寅卜幸干紀伊國將余祀群神祇  
 而不吉の車から止く遣屋主忍男武雄心命一云武  
 猪心 今余

爰屋主忍男武雄心命詣之居于河備柏原而祭神祇  
 仍住九年則祭紀直遠祖免遠彦之如影媛生武内省  
 祚と云ふはまゝ古事記のまゝに異なりしも生く他書に  
 よりて考ふるまゝ書紀にのりて考ふる天皇の曾孫彦  
 太忍信命の孫たりまゝ味原内省祚と古事記にのりて  
 大臣の兄と云ふは書紀應神天皇の御弟のまゝに記さ  
 りいん外異母兄弟なりまゝ其母より生れしと云ふ  
 ては古今と云ふものもあへんはれしも書紀にま  
 るまゝに記さるるに一年紀○書紀成務御卷に初天皇與  
 武内省祚同日生えしと云ふは景行卷三年に父命紀  
 國又九年に生えしと云ふはあはれは大臣の景行の  
 御世の四年より十二年までの間と云ふはまゝに  
 成務天皇と同日に生えしと云ふは天皇と云ふは大臣のまゝに  
 本苑省祚と同日に生えしと云ふはあへん混じらるるなり切古事記



武内公  
 錫帝者元履壽三  
 百駿強帝命四方率  
 服韓人不朝帝怒  
 於赫彌公佐雲海  
 表重譯洋洋聲聞  
 在茲無最

縣周南



武内宿禰生所

南紀  
 和春

齒  
 二百  
 藏  
 李徑





養老山護國院觀福寺

観音堂

薬勝寺村

あたらしく... 弘法大師

高野山と入道油くらりくたの下の石を右の卵

天竺... 弘法大師

八王子神社

溜清光山天平院薬王寺

日観水 月観水 星観水

日村... 佛工書日

此寺所の井泉は天長五年天下大旱魁一多のれより弘法大師雨乞の功あり  
 一七日のいんふのゆかりをたすい二七日の日月星を表しつゝいづゝも人の徳あり  
 ありて民たふさるゝ人徳あり  
 作て善果は徳あり  
 鎮守の 極樂橋 石のちりありて  
 紀伊州名草郡有一道場曰法王寺の善菩薩を所建立  
 也其跡雖舊風物惟新前有日月星之火後有黃纒纒之  
 林有草堂有茅屋有經藏有鐘樓有茶園有藥圃有白眉  
 颯爾余是羈旅之卒午之走初尋寺次逢僧定二前能  
 廻燈下談話耳目所感聊記斯文云爾

晚秋過紀伊州藥王寺有感

紀齊名之

日本書紀

武天皇の市之に紀伊國名草郡樺村の物部麻呂植春と  
 云者法王寺の樂料采を信りてはとほりて賣る麻呂  
 卒し其後の牡犢きりて藥王寺にりて塔を下り  
 依寺の者怪しく追出せし又ありて依りて去るいふ

藥王寺

白寺

佛達

蝶夢

秋

山

魚十







廢千光寺  
四ツ石



國廬山院神宮

大師堂

三上院千光寺

甚慶上人初修寺

三上院在官公文

位殿冲沙汰之車

右彼寺恒例佛事已下

冲沙汰不可返失之故下

元曆二年七月十二日

左近衛府生奉判

南照山妙臺寺

總師堂

十三日廿八日...

奉不勒明王

千光寺

為千光寺從

元曆二年七月十二日

元曆二年七月十二日

九頭神社  
妙臺寺

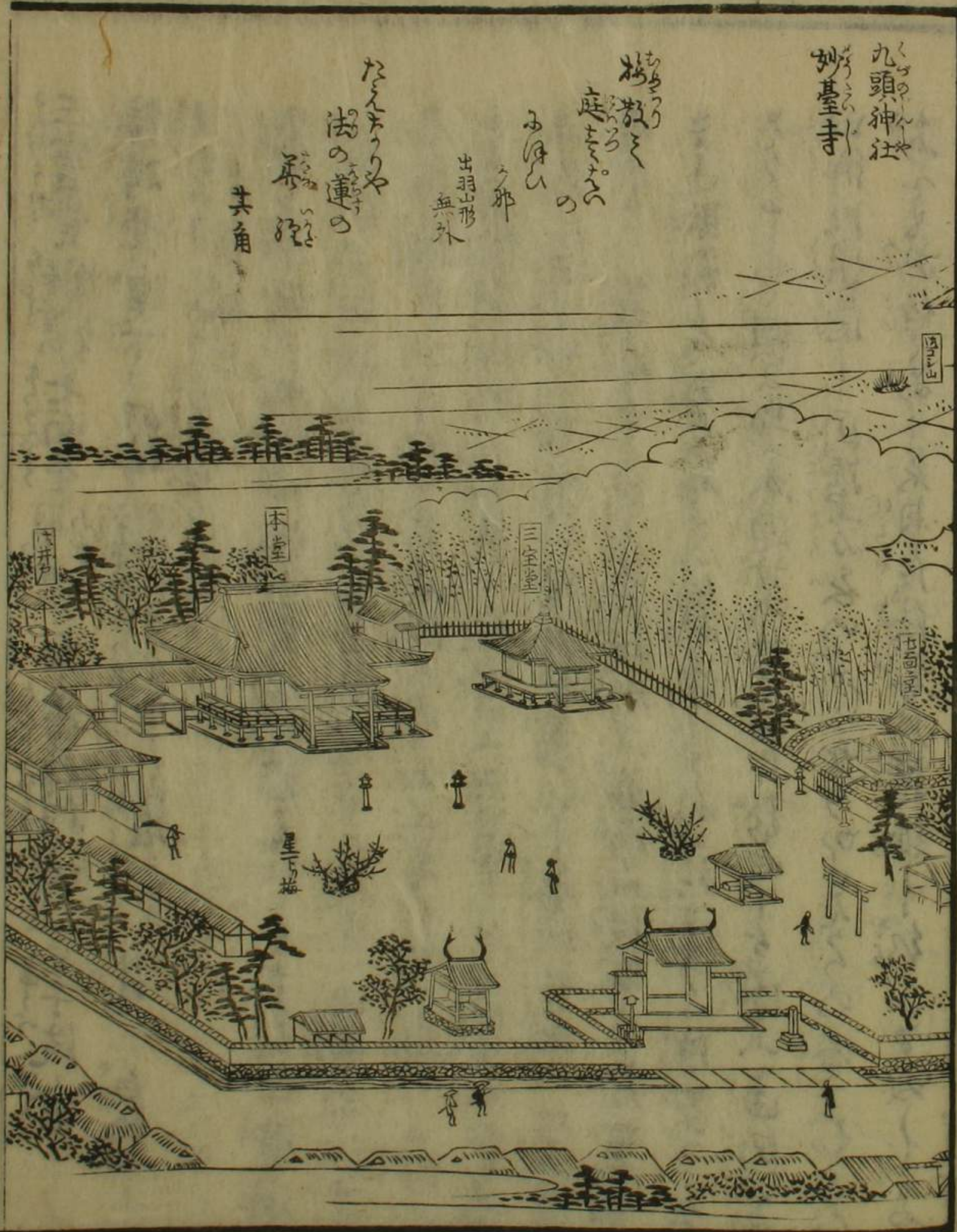
梅の  
庭まはりの

子守の

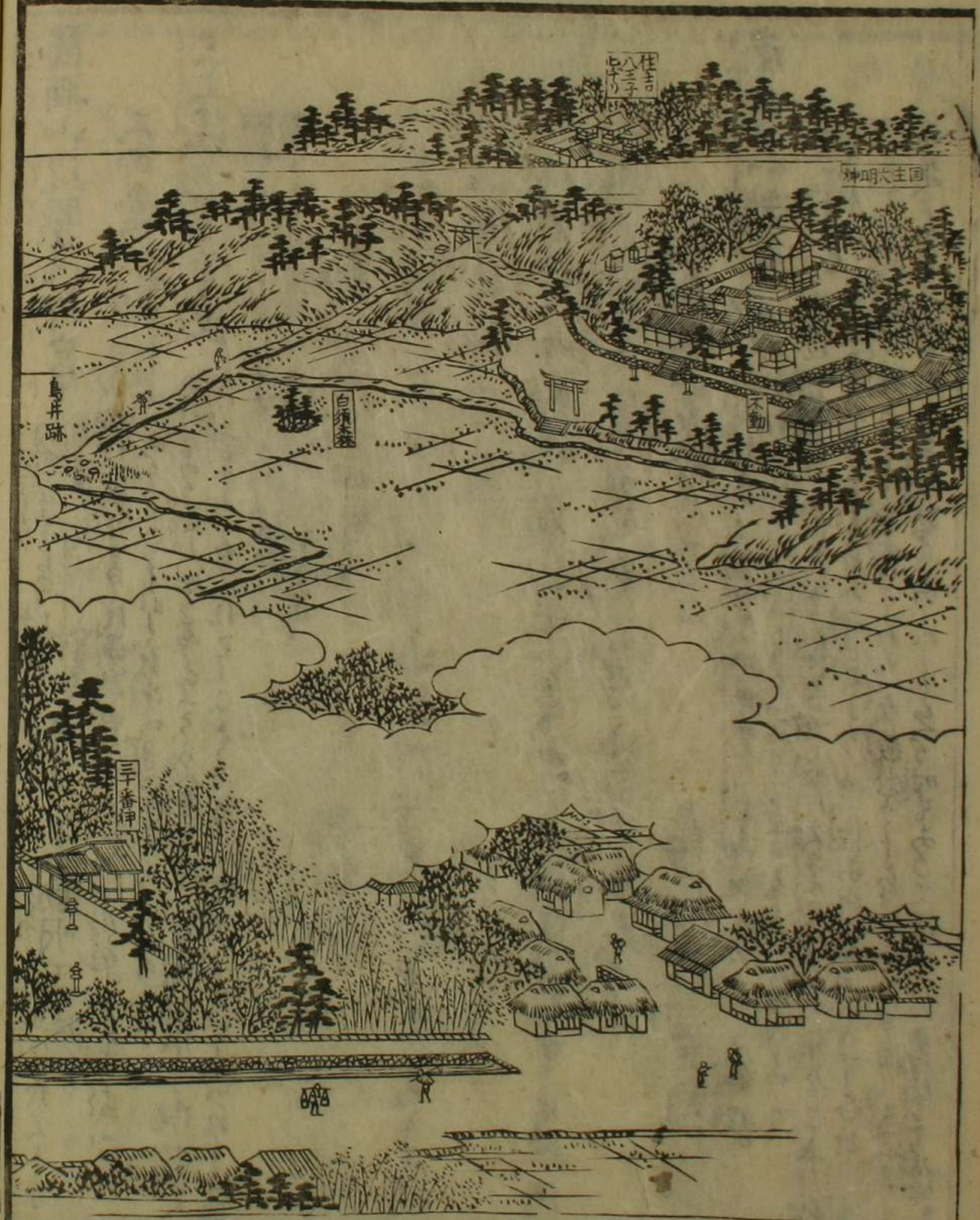
出羽山形  
無外

なえりや  
法蓮の

共角



神明大主





一は奇特のめいあまひよれんちかしの願わす  
 づらよゆははらう源二位の聽は遠也り思て大倉  
 御の市所よまはらふ縁とゆわたまひらるる孝貞は  
 もよたまひらるる孝貞の若き免まきりしあのお願る  
 ようとほらるるめり願ふもあひしうあはる  
 まあまのしあまの代りあだひあはる候ははる  
 源二位ははら何作の大倉小倉若き感賞しよ  
 袖をまきりしあはる通貞は願ふ罪科まきりて  
 此刑をゆるぎたはるる通貞は至孝のあまひ  
 ろうとほらるる縁とあひし通貞はあはる  
 まあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 大業妙曲の利益あまのあまのあまのあまの  
 ねらるるあまのあまのあまのあまのあまの

極も妙俸の通自法華のゆかして後益とらるるは  
 ほらまはるるあまのあまのあまのあまの  
 建保二年六月十日経巻とまはるる梵經と  
 まはるるあまのあまのあまのあまのあまの  
 款のあまのあまのあまのあまのあまの  
 くの法華のあまのあまのあまのあまのあまの  
 日朗上人後念はあまのあまのあまのあまの  
 二年後念はあまのあまのあまのあまのあまの  
 上人其志のあまのあまのあまのあまのあまの  
 せたまひらるるあまのあまのあまのあまのあまの

法華の蘆花と梅の枝の成程を色しるるに於て  
峯のさうり妙傳寺の修せし像のまをさあさめし妙  
ひせ号しるる其後星霜多経たりや経巻よれよ  
びが親多二年の春大を大信公のまをさるる本條  
むしに満ちて其の梅其の芳氣をさるるを其の  
多世のま像と彫刻して其のまをさるるを其の  
今も其のまをさるるを其のまをさるるを其の  
京原妙光寺九世日蓮上人のまをさるるを其の  
なま修補とくたたまし其のまをさるるを其の  
什宝緋紙金泥法華經の像のまをさるるを其の  
祖師真跡和歌一幅 長柄傘茶巾念珠  
大乗大像のまをさるるを其のまをさるるを其の  
冊識とくたたまし其のまをさるるを其のまをさるるを其の  
そのまをさるるを其のまをさるるを其のまをさるるを其の

宇佐八幡宮

岡田村にありて村の  
生五社に祀り月十三日

本社

天王子 伊勢古井 蛸子村  
五箇文 宮家八幡神

入船山世量寺清院神宮寺

日本にありて言ひ  
古義に依りて今を其のまをさるるを其の

大師堂

大願寺にありて言ひ  
大願寺にありて言ひ

念徴山專應寺

日本にありて言ひ  
ありて言ひ

観音堂

西國二十二年  
ありて言ひ

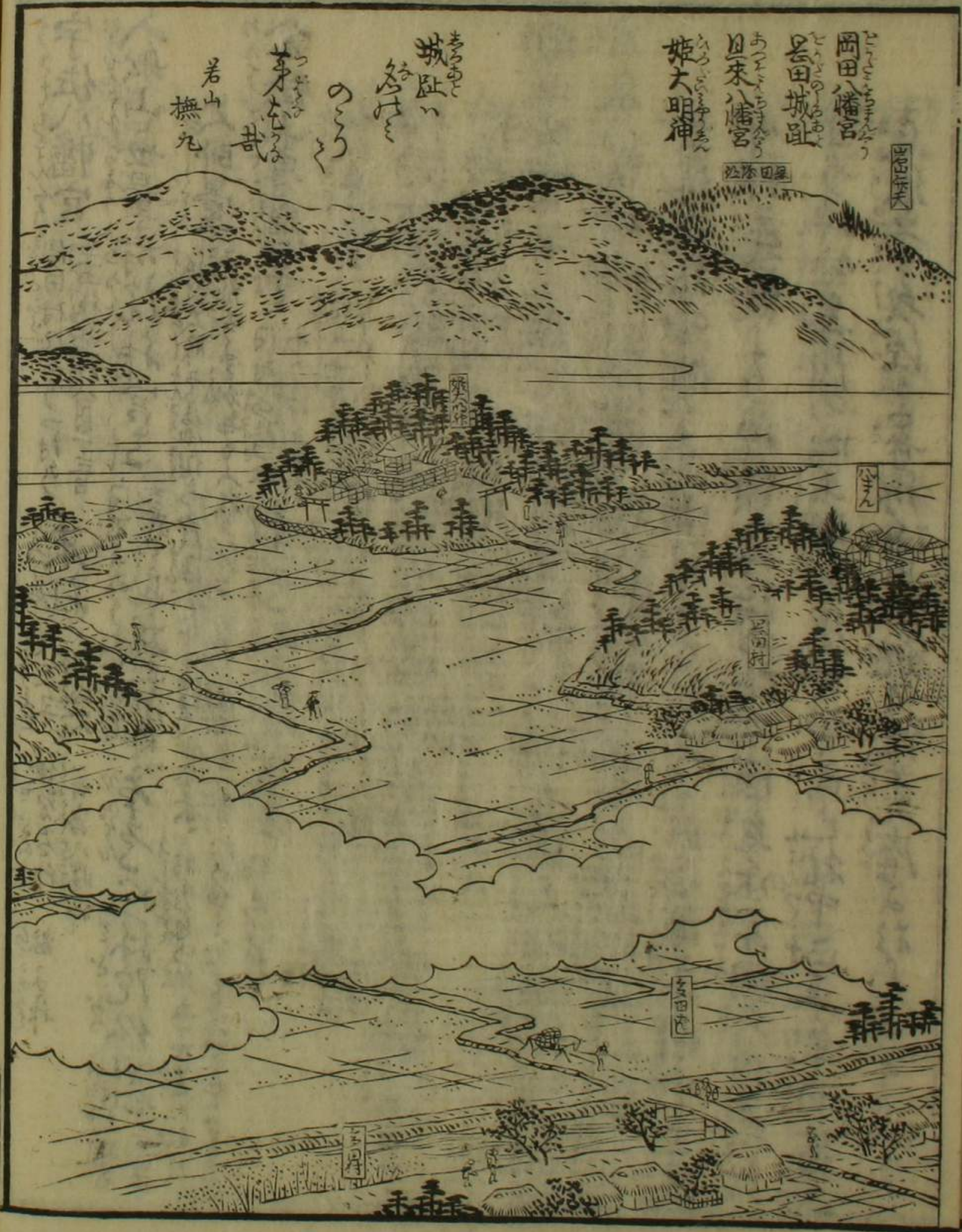
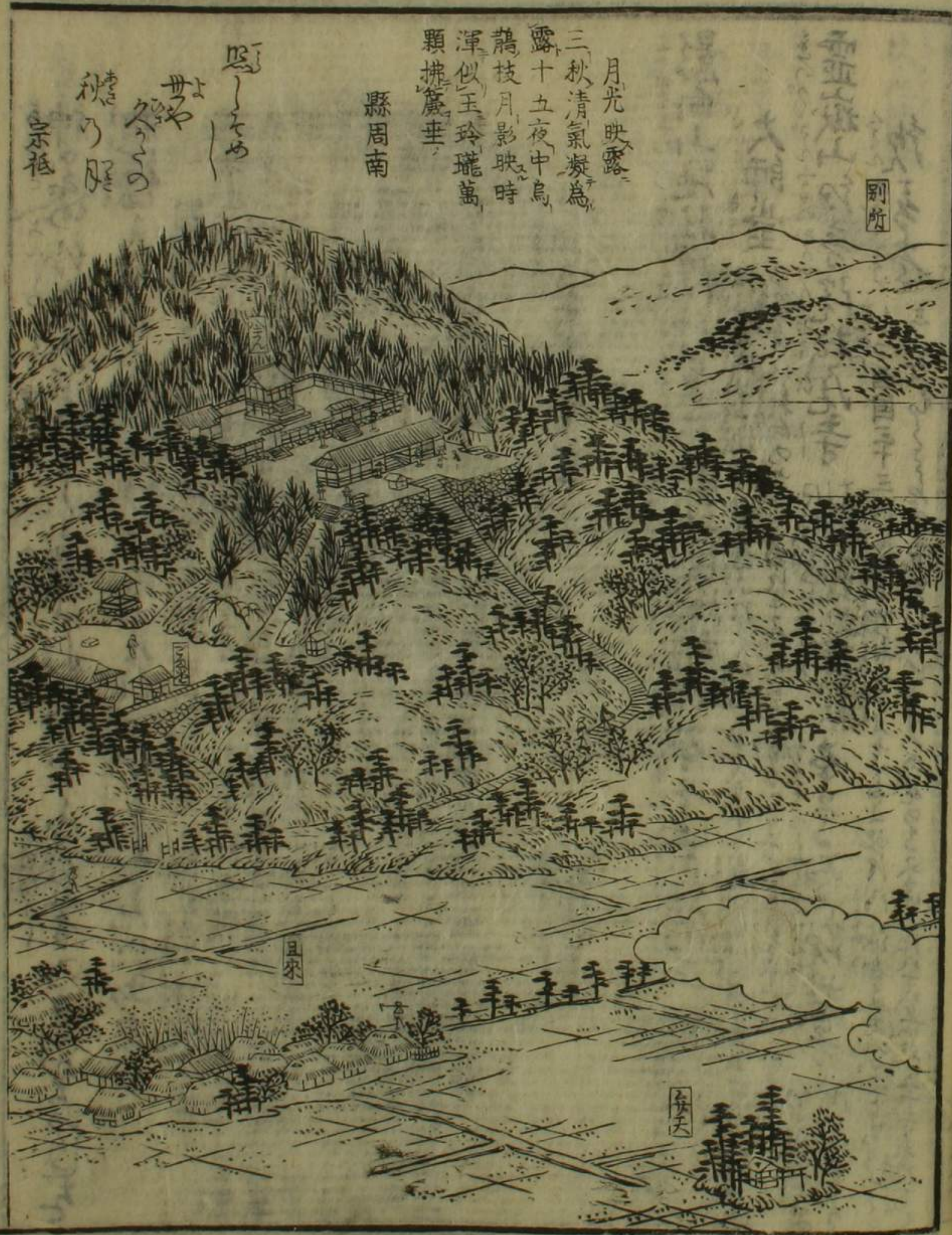
岡田城墟

岡田山義徳の臣臣にありて言ひ  
ありて言ひ

具來八幡社

五所にありて言ひ  
ありて言ひ

當社の勅法願ふ久遠にありて言ひ  
少輔義數より神領寺附の帖明徳  
より神領寺附の帖不明徳  
尾張守より神領寺附の帖不明徳





松尾神社

月

小鉢

長崎 仙芝

熊野本宮 友來

神家の始末とてか〜載るにむづかしくなるを  
 想像したるあまのりつら〜  
 畠山三郎尾張守義深寄附帖日紛失且來八幡宮色々神物等事  
 右紛失帖之細者去正平八年二月六日於當莊合戰之時傳法院之堂  
 衆等一揆内八人詭入社壇搜取色々物御劔一振御弓一張御矢一腰御筆法華  
 經一部往右置文一卷物忌量雙紙一帖論旨一通錦小路殿御教書一通細河殿寄  
 進帖一通小根殿寄附帖一通石堂殿寄進帖一通當莊本家領家之寄進狀三通  
 神主私文書等數通皆悉搜取者也同九日彼八人衆打入山口河邊致種々乱妨  
 之虞行向武家杉原手郎日被謀伐被懸其首於且來山峯懸誠當社御  
 敷地山野並神田貳町陸段者更以不向馬鼻若小月此旨轉神願於社領違  
 乱之輩者併相招當社八幡宮御神討者後仍為後證紛失狀如件

正平九年六月一日

尾張守判

影向山地後院仲宮  
 大師堂  
 靈山觀音院松尾寺  
 本寺石之現世寺  
 西国三十三所

建武三年六月十九日 紀伊神皇正統記  
紀伊神皇正統記卷之九十九  
紀伊神皇正統記卷之九十九  
紀伊神皇正統記卷之九十九

宇智部西大明神法  
宇智部西大明神法  
宇智部西大明神法

如意山宝勝院神宮寺  
如意山宝勝院神宮寺  
如意山宝勝院神宮寺

大師堂  
大師堂  
大師堂

威徳山薬受院神宮寺  
威徳山薬受院神宮寺  
威徳山薬受院神宮寺

大池  
大池  
大池

亀地  
亀地  
亀地

那賀郡  
那賀郡  
那賀郡

五月紀伊国全... 二月停布... 岩手八年

野上川  
野上川  
野上川

盆石  
盆石  
盆石

亀の川  
亀の川  
亀の川

溜王寺  
溜王寺  
溜王寺

大蔵寺  
大蔵寺  
大蔵寺

宗池冬光大際寺  
宗池冬光大際寺  
宗池冬光大際寺

衆影向の松  
衆影向の松  
衆影向の松

珠勝の古寺... 浄土を基ん





一、端靈山之別  
 修現無邊光  
 身亦勝法書師  
 之月像詩贊爲  
 書執至圓通之  
 復巖居讚別生  
 福寺親手刻勢  
 至之像藏一偈  
 有法然本地  
 身大勢至  
 並菩薩之句  
 又熊野大  
 權現示門  
 人直聖  
 曰師勢  
 至之化身  
 也等詳出  
 于傳

教向の  
 まつり  
 まつり  
 まつり  
 まつり  
 如賀  
 希因



淨土本朝高  
 祖傳曰大師  
 鳥得大勢至  
 應化其證非

九品寺  
 別院  
 影向の松

水見  
 南紀  
 雲城

船の  
 文の  
 二列  
 京夢

嘗に後月老松とてして崇地の内にも春寂らりかひ  
文治三年春二月浄土の元祖法皇上人御齡五十九歳  
のまらぬ野之所に況へ糸筆ありたるまらぬけあらざる  
あもらざるに錫杖もあまひしははは湯冷木村に人の  
禰師あり置り龜の川ゆく鱗を渾く後山にゆく諸款  
將く世に流るる女房もよきを深く歎きてとめなれども  
こまに用いざりたるは浄土の來りたまふにきこ  
上人よりいひの罪業ふらきを懺悔し未だとなさるん  
を願ふ上人の御心もあまひしはは先智園紙五障之從  
の女人もよき浄土の本願もあまひしはは名號とせたり  
浄土の仏のまゝの中にもあまひしはは極きなり飛陵も勿  
西方浄土のまゝにんごの鏡のあまひしはは法を  
日考ふ念伴しははあまひしはは合孝して終りぬまも

懺悔 龜の川へと流るる空しくありぬ今も古松一本  
塚のまゝにありしをまゝに當寺に再建し二季  
春秋のまゝに日想觀修結の念仏念漫を  
大匠舊蹟のつ負たり

如來山蓮臺院九品寺 九品寺村にあり浄土宗法皇御願に當りて

後山 別所村にありて浄土宗法皇御願に當りて

野上山別院金剛遍寺 日村にありて浄土宗法皇御願に當りて

服士 池田天 大匠堂 西にありて浄土宗法皇御願に當りて

居よはし十かたゆりたる出る雲をきて浄土を  
まろくまの目にはかきし侍所又寂莫なる鐘なるる音  
を接し遊しと兼てははわたりて長閑やて



尾張  
大草



孟子不動  
清暑瀑  
飛瀑落山巔  
巖巖推為雪  
忽被天風飄  
掃却人間熱  
山根清

鬼賈

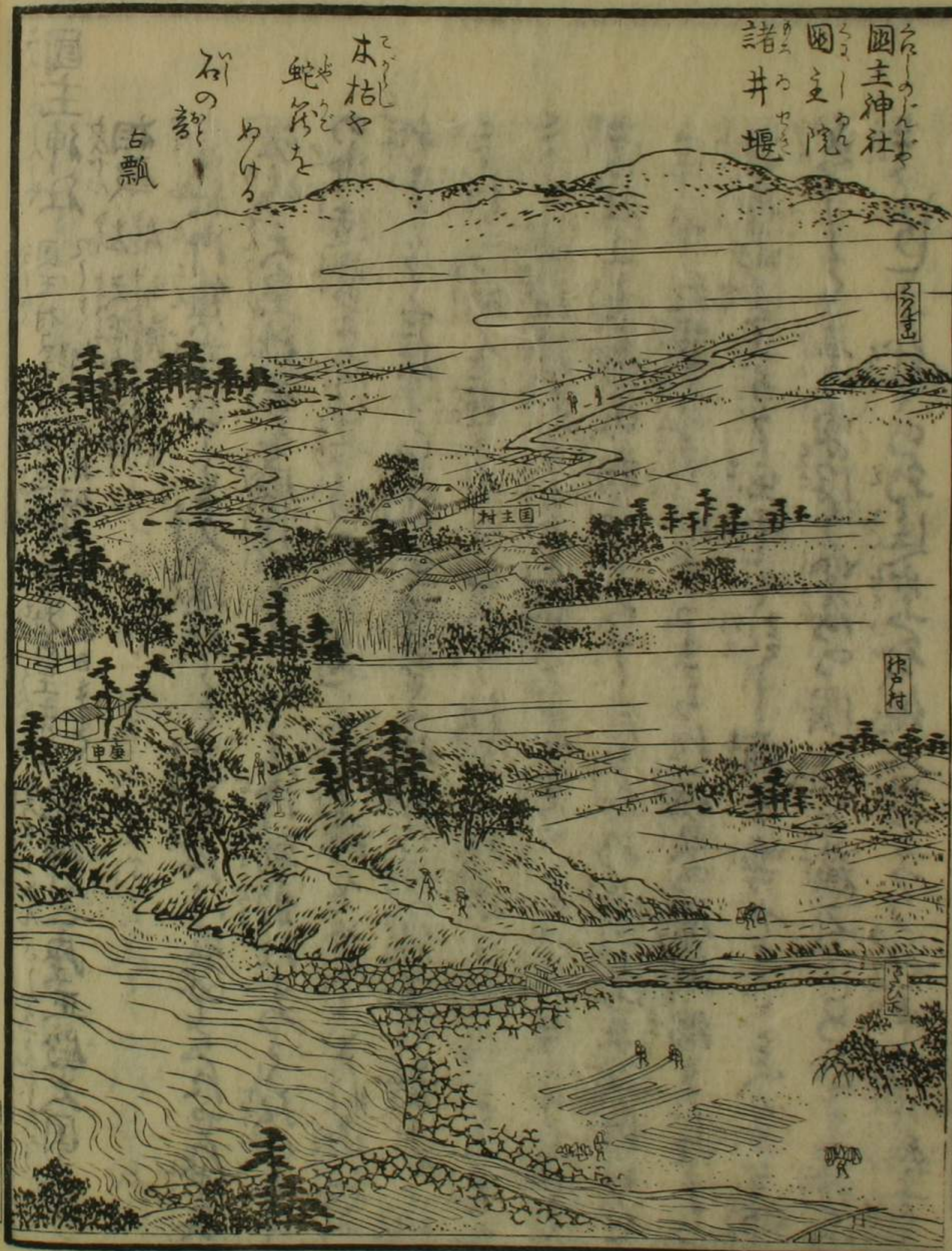
十住公の花の匂いあざすなり弘仁年中弘法大師四沙を  
 やりりあつた地端雪澤くく立昇るこれ靈城也  
 とて林園を造立し號く野上とてありしと云ふ  
 生土神八幡宮の神地なり別院のありなき  
 悲観る地獄道なり三摩瓜がうじも今も靈誌新と  
 三子不勒院那伽寺弘法村西十四所の中にあつた義濟東の地蔵寺本寺石像不動の王  
 弘法大師の作長六尺四寸 當の弘仁年中親皇海諸国巡經のとき  
 此廟のありあつたまじい國家の平安の祈願七日結縁し  
 たまふと思ふや宮上より勅さるるにまじい其の宮に  
 寫さるる像の威相凛々として殊勝のる像なり  
 大盤石の上より坐する此寺の巖上の建てる其の宮の雀鬼  
 くる巖石層々として石泉の翠岩ははくく落る蒼樹  
 蒼羽皆々として陰涼の傲一毛骨悚然として述ぶるに

國主神社

國主村あり貴志庄十四村の生土神  
 相殿左天照皇大神 右山鹿大神

此神之座正殿大國主命

當社神鎮座いとも久遠なり其始は及びらんせん中興  
 嵯峨天皇神若を感得なりなす神勅飯なり弘仁九年  
 の神造宮なり其後天皇遙く遠くを遷すをめぐりしは  
 初幸ちりやなまじい常磐宮に此宮の堂の末の堂とて流  
 手づくりの橋を植へていかに今社あり神あり神ありの  
 まじい其後流れて又天長二年天下たまたま早口より  
 貴社なる神の勅使とてたむいれぬのありぬありて  
 ありぬのまじい大徳なりまじいに社ありの深淵溜まり  
 新神ありまじい神を祀り雨を喚ぶとてまじい神  
 ありまじい喜雨降り四沙の洞窟と蘆之にわたす神  
 ありまじい代々の外は堂敷地を思ふなり神中後を神上皇



怨野之山中幸のわつ風興と暮たつ建久の比右幕下頼  
 朝々社頭再建の下あり六月六年大社殿と盡して  
 あり東郷志のありた神領を子と暮海さるも古のあり  
 ませー神佐の皇祖よまとい倉海桑田のさるいりさる  
 天宮さる織田さるの言たつて神領は収りようにも  
 さるうちり高古も言はれはるる其分はるる  
 深洲神領ありと月日より 国主神領のなれし神領を神らり  
 二平山内御進且其の他たつるの御領は加屋さるる川さる  
 長原さる入里さるたか中さるるに寺付よりさるる  
 鳥帽子岩 鞍掛岩 諸井堰  
 長原さる入里さるたか中さるるに寺付よりさるる  
 鳥帽子岩 鞍掛岩 諸井堰  
 長原さる入里さるたか中さるるに寺付よりさるる  
 鳥帽子岩 鞍掛岩 諸井堰

大盛せりし中さるるまのまのりつたありさるる  
 着くありさるる酒を破るるさるる桶さるる  
 備と綱のさるるさるる形さるるさるる  
 二平さるるさるる百人さるるさるる  
 ありさるる飯をさるるさるる紙の  
 長原さる入里さるたか中さるるに寺付よりさるる  
 鳥帽子岩 鞍掛岩 諸井堰



國主大明神  
 大飯  
 茶はもは  
 あく握  
 大飯  
 夕  
 洛  
 慶水

八  
 八  
 八

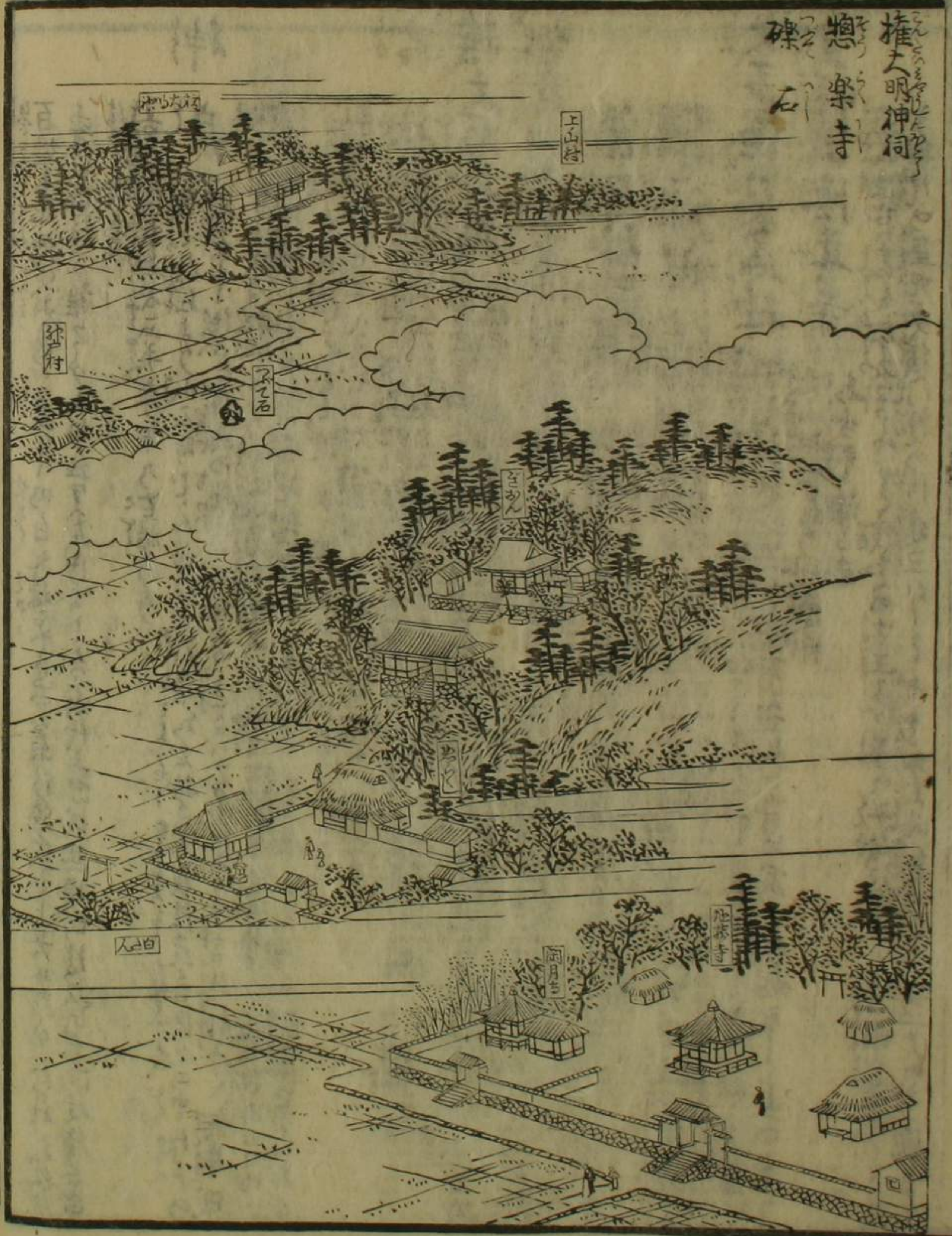
年比ゆわたりたる世の事  
御上川の事には林村の  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御

年毎に千人此の事あり  
一の田に千石ありて  
毎年の事にして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御  
事をもてまゝにして御





推大明神祠  
惣樂寺  
碑石



王守り火拳  
日村山十丁にあり山脈を依り山を峻嶒なりけり  
半殿なる後寺の大門を樓閣なりあり

二葉山妙音院親孝寺  
尾村山あり山脈を依り山を峻嶒なりけり  
半殿なる後寺の大門を樓閣なりあり

只願童の口碑を遺り成り開闢の年代まら夫は因りて  
日月太世のる像も何人か刻りて後寺の権堂も何人か  
らりて皇太子人皇七十四代を親院の皇后美福門院の靈  
像とせぬ像ありて神願寺と云りたまふや皇后の位牌を  
後白美福門院眞性 延保元年己丑 十一月二十三日 住持の對境も何人か  
しごとく分のを火ふか門に親願殿にたき舊跡の田圃乃  
あざあふのこまらり 美福門院の神願殿あり 長安宮の神願殿あり

白山岩谷  
日村山七丁山の谷にありおん岩なる高き山を各形なりて  
もとも奇なりて人跡罕至なりて俗に傳へく  
本朝國語云 此伊國白山岩と云り所の川の南岩手里の本申のくこみ

大野羅の神社  
王子亭  
法華寺

中辰日

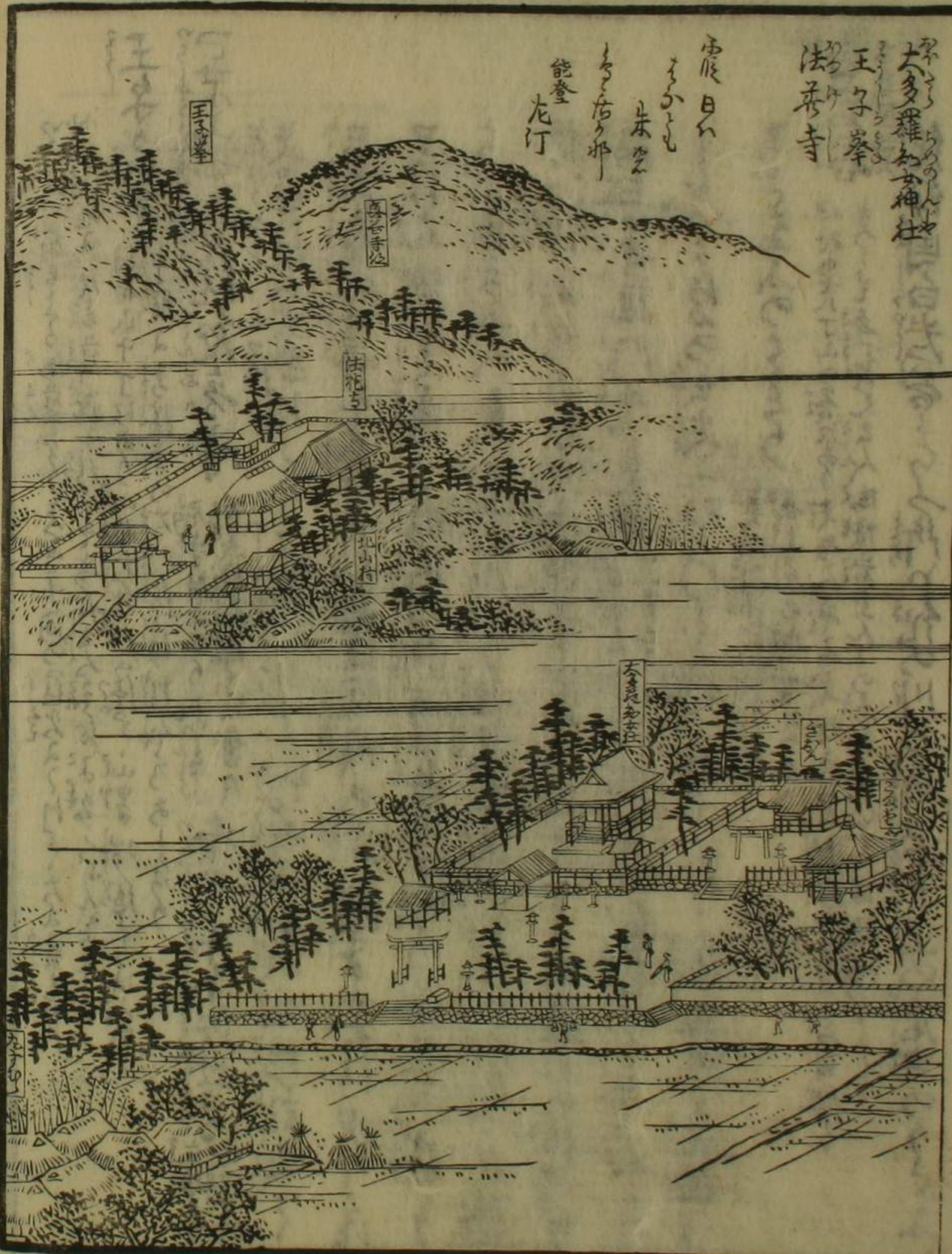
いふ

止本堂

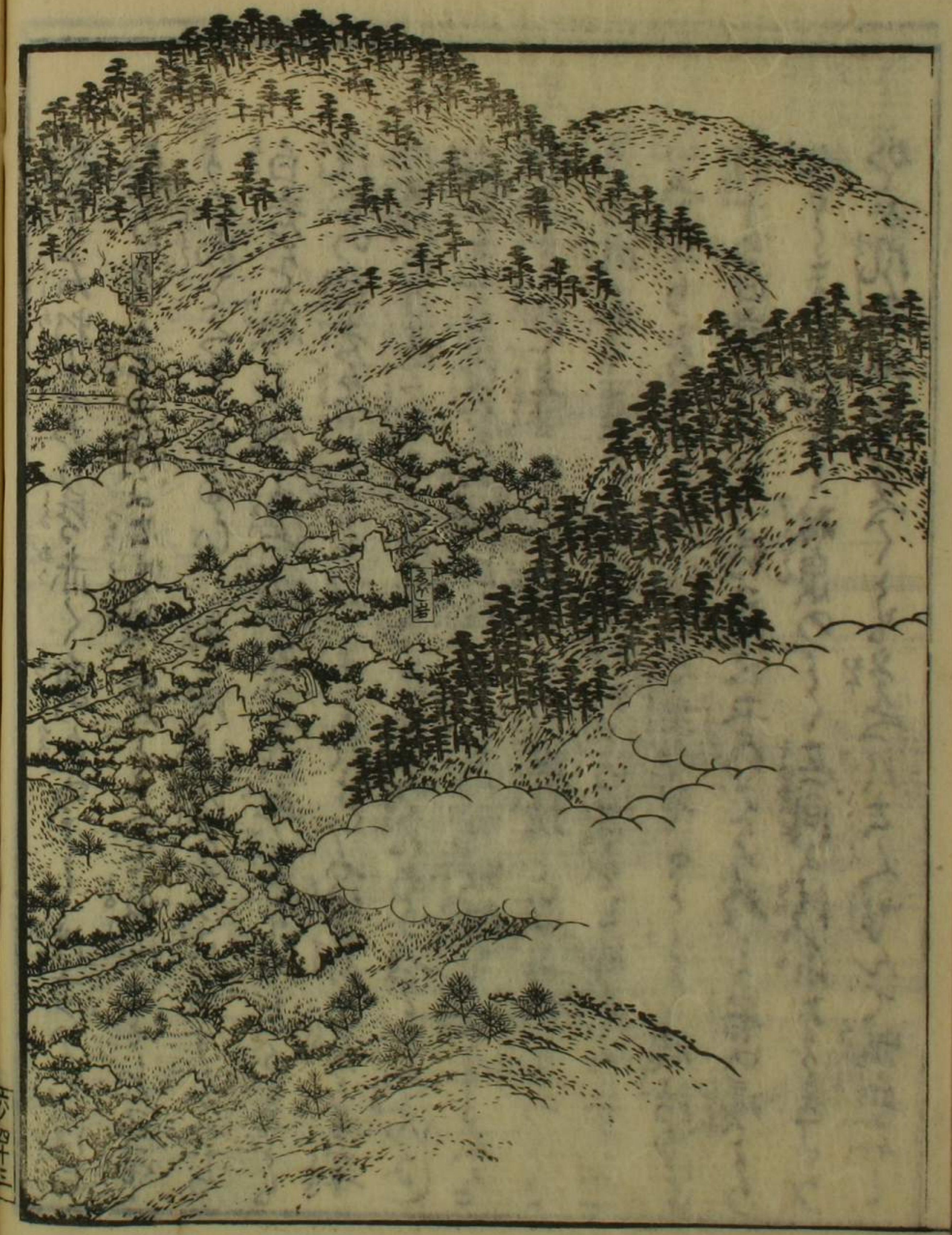
より活り

能登

九汀



大なるおれまあり赤く血の色のごし住むる色潔白  
れありなるる所よと蜘蛛あんと人を取固てとの帝  
より勅とくごたのいそは退治する其血すまりら  
白岩を織し金と其色を染むる血色たるよりまこと  
住むる白岩谷とともりの名はとくしけ谷の車ある亭  
は巖あり其下はよ方立つたる尖穴ありぬるとおとほ  
或るまき此谷の山賊埋体とく鬼魅妖怪と人止り人を  
颯々物と奪賊の舞とく蜘蛛とく世所ありのりこ  
くら山に貴志馬の里村野上の岩々と蜘蛛の景色色  
りさるりありをく証まの重山をくく波流のど  
數十の白岩ありのり一島又の二五島をうぬるる谷の頂より  
ゆりまきとく林泉のりく其間又清流をくまきり  
かる風色地よあまもくもそとへ去人呼んで蛇血石と



いそし附會の話瓜るんこのふらむて白あうし、金砂  
を草たり其性變りよりくあふいん黒く改めあかく  
まひるもあり域内のつ奇観とるぞー

富縣彼嗚血岬有新城戸岬者又和珙坂下有居勢祝者願見長柄丘岬  
有猪祝者此三鬼土蜘蛛正特其勇力不肯來庭天皇乃命青備師  
相類皇師結葛細而掩襲殺之其景行の龍卷に到速見邑有女人  
日速津媛為一鬼之長其聞天皇車駕而自奉迎之諸言哉山有大石  
窟曰罍石窟二土蜘蛛住其窟一日青二日白又直入縣徐疑野有二  
土蜘蛛一日赤獲二日白田三日國摩侶是五人並其為人強亦流類多  
皆曰不從皇命云云又同神卷曰高津原渡玉杵名邑時殺其鬼之土  
蜘蛛津須弓又神功神卷曰轉至山門縣則誅土蜘蛛田海津媛又平家  
物語第五日昔日本營余彦孫孫神武の精々四年紀別名草郡高津村  
有蜘蛛女一鬼身短く手長く其髪をくわくかたうとくわく人々をく  
たへありとるん上女若巖土蜘蛛とて人々を殺す人々を殺す人々を  
性の土蜘蛛とて人々を殺す人々を殺す人々を殺す人々を殺す人々を  
くく地神あり神功神卷曰神武天皇御宇土蜘蛛とて人々を殺す人々を  
あつたしモモリノ俗アリト云々土蜘蛛とて人々を殺す人々を殺す人々を  
いのかとていふも鬼とてあるより後くはあつたしモモリノ俗アリト云々

運兵八幡宮

玉依姫

末社

紀神應神天皇神功皇后

生主神功皇后八月十三日  
神記曰昔宮ノ皇七十代後冷泉院帝の沖代ニ云々  
大和国守志郡ニ坂上法兼ノ一人あり名ハ八幡宮ノ  
名信ノ一ノ他ノありシガ康平六年中秋の比ある  
ある夜一暈の雲月ノくく南の方より耀々して法  
法兼ノ二人の男子女子ノ多シク其ノ就ク其魚ノ  
志ハるモノヤク地ノ中ノくくして其ノ心法兼ノ人  
ナリ是則八幡宮ノ影向也云々  
常ノ其方殿間ニ遠ク一ノ神領若千ヲ有セ云々  
度ノ鳥籠ノかゝり公成ノ宮所ニ云々鳥籠ノ  
ワリ云々所ノ古柏ヲ通アリ





箱 經 山 淵 石手渡

竹林行飲盡古渡接人如潭影龍深翠山光帶

中州

此山... 南... 照... 影... 龍... 翠... 山... 光... 帶... 中州

兩段觀魚亭、後掉數睡、立清池、更有起然、趣朗吟與

特加

宮廬水 陽の日向の

相傳人、生於神靈、蛇々々々、年必食、草萊と雜、餘は廬水

を疏鑿、一なる、下ら、其、竿の、尺、あり、川中、二丈、つ、り、お、さ

し、たり、毎、年、お、さ、れ、日、本、國、を、兩、大、洲、と、後、津、を、一、と、ま、り、る

御、日、前、宮、の、林、邊、の、う、ら、り、た、り、お、さ、れ、山、門、を、こ、り、り、お、さ、れ、

ま、り、る、と、此、の、川、を、と、ら、り、早、魁、れ、こ、の、廬、水、

洞、を、り、る、物、を、石、の、田、地、を、着、入、の、用、漕、を、り、る、と、ま、り、る、

年、六、乃、よ、み、福、水、の、浮、論、あり、日、本、宮、國、造、を、か、こ、り、佐、茂、り、

池、頭、磯、と、す、ぐ、れ、多、論、れ、な、る、な、光、塔、の、は、栗、栖、の、石、は、廬、水、の、

中、は、お、り、り、せ、極、水、を、り、ら、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、



